

静岡文化芸術大学図書館・情報センターだより

# 新 知 夫 温

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2011.7 Vol.18

平成23年7月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター  
〒430-8533 浜松市中区中央二丁目1番1号  
TEL (053) 457-6124 FAX (053) 457-6125  
http://www.suac.ac.jp/library/

## Contents

### ■表紙

#### 『日明御綱絵図』 ————— ①

### ■図書館散歩

#### 旅に誘う書 ————— ②

文化政策学部 国際文化学科 学科長  
池上 重弘

#### 文学にデザインを読む — ③

デザイン学部 生産造形学科 学科長  
黒田 宏治

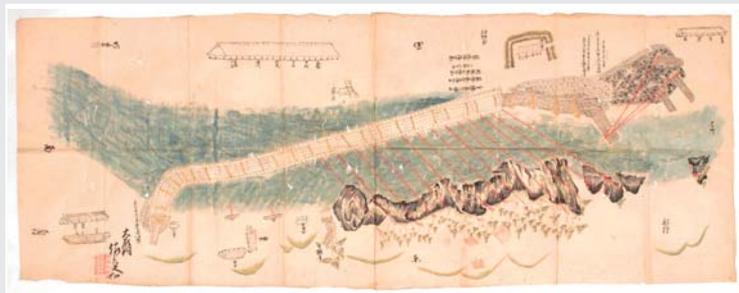
### ■シリーズ

図書館・情報センターを使いこなそう！

#### マイライブラリ編 Part3 — ④

### ■巻末

#### 図書館ニュース ————— ⑥



#### 『日明御綱絵図』 静岡文化芸術大学蔵 和田文庫

静岡県磐田郡龍山村西川(現在の浜松市天竜区龍山町西川)で山林業・酒造業・回船問屋を生業とする和田家が所有していた「日明御綱絵図」は、作成年代不明の1枚ものの絵図です。これは、天竜川に留綱を張った光景を絵図にしたもので、天竜川や木材について語る際には欠かすことのできない貴重な資料のひとつです。

檜や榎を原木とする樽木という板材を天竜川下流に送る際、流れが緩やかとなる日明(現在の浜松市天竜区日明)から船明(現在の浜松市天竜区船明)の間に留綱を張ってさえぎり、ここで一旦水揚げを行いました。その後、樽木は船明村樽山に棚積・筏組されて掛塚(現在の磐田市掛塚)に運ばれ、そこで船積され江戸を始め所々に配送されました。留綱は白口藤や小藤などの蔓を原材として村民が織りました。留綱を張った期間(11月から1月頃)は、天竜川の通航は禁止され、農民達は不便な生活を余儀なくされました。なお、日明御綱役は江戸時代の北遠諸村の人々に課された夫役で、年貢のかわりとして上納されました。

※和田文庫は和田家が三代(江戸時代中期から後期)にわたり収集した歌書、史書、漢籍、遠州国学関係の古書千百余冊からなります。「万葉集」・「古今集」・「新古今集」・「金葉和歌集」・「千載和歌集」・「夫木和歌集抄」等の和歌集、「八雲御抄」(歌学書)、「土佐日記」・「伊勢物語」・「源氏物語」・「徒然草」等の古典類、「円機活法」等の漢籍類、「都名所図会」・「経典」・「風土記」・「謡曲本」・「占い」・「作庭や香道の本」と幅広く収集されています。中でも「本草綱目」(明の李時珍著)と「和漢三才図会」(江戸時代の絵入り百科事典)については保存状態が良好です。遠州国学の基礎を築いた内山真龍との交流もうかがえる資料も含まれています。

#### 【参考文献】

- ・龍山村村史編纂委員会 編『龍山村史』龍山村 1980〔092.1/Ta 95〕
- ・「角川日本地名大辞典」編纂委員会編『角川日本地名大辞典 静岡県』角川書店 1982〔291.03/Ka 14/22〕
- ・平凡社地方資料センター編『静岡県の地名』平凡社 2000〔291.03/N 77/22〕



文化政策学部 国際文化学科 学科長  
池上 重弘  
Ikegami Shigeaki

本文中に登場した資料

小田実 [著] 『何でも見てやろう』 [290.9 / O 17]
村井吉敬 [著] 『スンダ生活誌： 変動のインドネシア社会』 [292.4 / Mu 41]
加藤剛 [著] 『時間の旅、空間の旅： インドネシア未完成紀行』 [292.4 / Ka 86]
P. ポスポス [著]；池上重弘 [訳] 『スマトラの学校時代： あるキリスト教徒の思い出』 [389.24 / P 84]
司馬遼太郎 [著] 『オランダ紀行』 [918.68 / Sh 15 / 61]
沢木耕太郎 [著] 『深夜特急<第一便> 黄金宮殿』 [915.6 / Sa 94 / 1]
沢木耕太郎 [著] 『深夜特急<第二便> ベルシャの風』 [915.6 / Sa 94 / 2]
沢木耕太郎 [著] 『深夜特急<第三便> 飛光よ、飛光よ』 [915.6 / Sa 94 / 3]
沢木耕太郎 [著] 『旅する力：深夜特急ノート』 [915.6 / Sa 94]

いざな  
旅に誘う書

高校生活を送っていた頃から30年が経つのに、いまでも忘れられないシーンがいくつかある。不思議なことに——と、現在教師の立場にある私が書くのもおかしなことだが——とくに印象に残っているのは、教師のなかにふと「素の人間」がかいま見えた瞬間だ。

あれは高校1年の夏休み明けだったと思う。地理の教師が夏休みのヨーロッパ旅行について話していたとき、「ここからは教師としての発言ではないので」と前置きして教壇から降り、語り始めた。「旅先の国の女性と寝ないことには、その国のことを本当のところでは理解できないと思う」と。さらに続けて何か語ったはずだが、語りだしのインパクトに圧倒され、そこばかりが強烈に記憶に刻み込まれている。

私自身は彼の発言に与するものではないし、その発言が正しいかどうか判断がつかねる。しかし、大学生になって小田実の『何でも見てやろう』を読んでいて似たようなせりふに出くわした時、「もしかするとそういう異文化体験もあるのかもしれない」と感じた。『何でも見てやろう』は1961年に出版された。1950年代後半のアメリカに留学しハーバード大学で学んだ日々のこと、その後欧米・アジア諸国を極貧旅行した体験が本音で記されている。私が同書を読んだのは1981年、大学1年だった。行きつけのジャズ喫茶でページを繰りながら、世界への眼を開かせてもらった。もちろん後に思想家として名を馳せる著者の旅は、こんにちの若者たちのような単なる「自分探し」の旅ではない。社会の矛盾に向き合い、そこに身を置く旅行者としての自分と対峙する。そういう社会的視点に貫かれながらも——貫かれているからこそ、というべきなのかもしれないが——あちこちで土地の女性と寝たことなども赤裸々に記されている。その土地に生きる人のリアルな生き様が迫力を持って伝わってくるのだ。もしかすると、後年私が文化人類学に強い興味を示したのは、この本との出会いが大きかったのかもしれない。いまになってそう思う。

文化人類学の場合、海外での現地調査が欠かせない。私の場合、調査地はインドネシアだった。1990年夏から1年間、ジャカルタ郊外のインドネシア大学で過ごしたが、渡航前に読んだ本のうちとくに印象深かったのは、村井吉敬の『スンダ生活誌』だった。1978年に出版された同書は、「変動するインドネシア社会」と副題にあるとおり、1970年代に西ジャワのスンダ地方で留学生生活を送った著者がスハルト政権下で変わりゆくインドネシアの社会を民衆の目線に限りなく近づきながら綴った本だ。稲の品種改良が進み、農薬や殺虫剤も導入され、マクロ統計でみると農業生産性は向上した。しかしその陰で、零細農民の多くは土地を失い、農業労働者に没落するか、職のあてもないまま都市に出て行くしかない。東南アジアの経済成長の光と陰を丹念に描いた良書で、私の留学生活のバイブルとなった。

インドネシア留学中は、ジャカルタ中心部にあった京都大学東南アジア研究センター（当時）のジャカルタオフィスによくお邪魔させてもらった。その頃の駐在員は、私と同じくスマトラをフィールドとする加藤剛先生だった。西スマトラの母系社会ミナンカバウの研究者である加藤先生は、北スマトラの父系社会バタックを対象とする私の研究に強い関心を示してくれて、食事をごちそうになりながら、長い時間語り合う機会に恵まれた。その加藤先生が自身の研究を旅という視点で振り返ったのが『時間の旅、空間の旅 - インドネシア未完成紀行 -』（1996年）だ。いま目の前に見える光景はどのような時間の流れの中で形成されてきたのか——。ついつい忘れがちになるそうした問題意識を持つことが、異文化理解に欠かせないことがよくわかる。

私自身が自分のフィールドをめぐる時間の旅に関心を抱くようになったのは、『スマトラの学校時代 - あるキリスト教徒の思い出 -』（2002年）を翻訳出版する準備を進めていた頃だ。資料収集のためのオランダ訪問前、司馬遼太郎の『オランダ紀行』を熟読した。海から眺める世界史という視点を強く意識するようになり、またオランダからインドネシアを見る視点も自分のなかで確立した。

加藤先生のジャカルタ駐在中、先生が短期の調査旅行に出る際にオフィスで留守番を頼まれることがしばしばあった。そのとき、先生の書棚のなかに沢木耕太郎の『深夜特急』を見つけた。単行本の第1便と第2便の出版は1986年。おそらく加藤先生が『時間の旅、空間の旅』を書いた背景には『深夜特急』からのインスピレーションもあったのではないかと推測している。私自身が『深夜特急』を読んだのは1992年。第3便が出版された年で、全3便を一気に読んだ。インドからロンドンまで乗り合いバスで行ってみようという旅の記録で、かなり広く読まれた本だ。インドにたどり着くまでの第1便、とくにマカオでのカジノの場面の臨場感がすばらしい。2008年には『旅する力 - 深夜特急ノート』が出版された。いわば『深夜特急』のメイキングだが、単行本出版から20年以上が経過し、著者の中で醸成された味わいが伝わってくる。読む側もいい意味で年齢を重ね、20代が人生においてどんな意味を持つのか、沢木の経験を通して自分なりに考え直すよい機会になった。



デザイン学部 生産造形学科 学科長  
黒田 宏治  
Kuroda Kohji

本文中に登場した資料

松浦寿輝 [著] 『花腐し』 [913.6 / Ma 89]
松本清張 [著] 『けものみち』 [918.68 / Ma 81 / 15]
松本清張 [著] 『夜光の階段』 [918.68 / Ma 81 / 46]
松本清張 [著] 『紅い白描』 [913.6 / Ma 81]
三島由紀夫 [著] 『にっぽん製』 [913.6 / Mi 53]
村上龍 [著] 『希望の国のエクソダス』 [913.6 / Mu 43]
平野啓一郎 [著] 『かたちだけの愛』 [913.6 / H 66]
サン＝テグジュペリ [著]; 池澤夏樹 [訳] 『星の王子さま』 [953.7 / Sa 22]
澁澤龍彦 [著] 『フロラ遺選』 [914.6 / Sh 21]
勝見勝 [著] 『現代デザイン入門』 [757 / Ka 88]
栄久庵憲司 [著] 『インダストリアル・デザイン: 道具世界の原型と未来』 [757.2 / E 44]
ヴィクター・ババネック [著]; 阿部公正 [訳] 『生きのびるためのデザイン』 [757 / P 22]
アドリアン・フォーティ [著]; 高島平吾 [訳] 『欲望のオブジェ: デザインと社会 1750-1980』 [501.83 / F 39]
黒田宏治 [著] 『デザインの産業パフォーマンス』 [501.8 / Ku 72]

## 文学にデザインを読む

『文藝春秋』2000年9月号は手元に残してある。第123回芥川賞受賞作の松浦寿輝『花腐し』が掲載された特別号である。主人公の榎谷(クタニ)は40代半ばのグラフィックデザイナー、事務所経営に行きづまり俄か地上げ屋に身を堕とした、しがないデザイナーの物語である。バブル崩壊から長引く景気後退のただ中であって、さもありなんとといったところ、その時代のデザイナーの実像が臉に浮かんでくる。それ以前にはデザイナーを意識して文学作品に接することはなかったが、こういった読み方があるのかとの気づきをもたらした印象深い作品である。

2009年が松本清張生誕百年ということで、2005年頃からドラマ化された清張作品が茶の間を賑わせたのはまだ記憶に新しい。2006年放映の『けものみち』では、米倉涼子演じる主人公・成沢民子は政界の黒幕をパトロンに得て銀座に宝飾店を構えるジュエリーデザイナーの役柄である。1962年に発表された原作では、民子は手に職を持つことなく不幸な最期を迎えるが、宝石デザイナーと称するミステリアスな女性が登場する。同じく清張作品の『夜光の階段』(1969年)では、駆け出しのヘアデザイナー佐山道夫が、やはり手に職、パトロンを得て青山に美容室ビルを持つに至る。幼少期の不幸を背負いながら地方から東京に出て都心に店を持つという一種デザイナー成功物語でもある。もちろんフィクションであり小説ゆえの脚色はあるにせよ、高度成長期にあこがれの対象であったデザイナー像が描かれていると言えるだろう。

清張作品にはしばしばデザイナーが登場するのだが、実は小説家デビュー以前はグラフィックデザイナーであったという異色の職歴をもつ。なるほどリアリティあるデザイナー描写も納得である。ちなみに『紅い白描』(1961年)の中では、デザイナーについて「ただ絵が立派なだけでは通らない。スポンサーとの間の談合や、取引の仕方も見習っておかなければならなかった」と釘を刺すような記述がある。まだデザイナーの希有な時代、当時読者にどのように受け取られたかは判じかねるが、50年を経てデザイン産業の教科書としても読める内容である。清張作品を読み進めるといろいろな発見がありそうである。

探していくと三島由紀夫にもデザイナーが主人公の作品がある。例えば1952年に発表された『にっぽん製』である。主人公の春原美子はフランス帰りで銀座に洋装店をもつファッションデザイナーである。やはり不幸な幼少期を過ごし、英国風紳士の金杉という繊維問屋のパトロンに支えられている。作品中では柔道家・栗原正との対比で裕福、西欧、先端の気分を纏うあこがれの女性像として描かれている。翌53年に美貌の女優・山本富士子主演で映画化されているが、まだ敗戦の混乱も収まりきれない時代、恋心に揺れつつも新たな価値観を代表する自立した闊達な職業婦人であったと言ってよい。

最近の文学作品ではデザイナーの描かれ方もずいぶんと変わってきた。村上龍『希望の国のエクソダス』(1998年)では、北海道を舞台に家具は北欧、ファッションはベルギーやモロッコなど、デザイナーが出身地別に使い分けられている。CGデザイナーは米国帰りでである。平野啓一郎『かたちだけの愛』(2010年)では、プロダクトデザイナー相良郁哉は義足をデザインする。身のまわりの生活用品一般のデザインが仕事内容で東京の美大出身の経歴である。決して造形設計だけがデザイナーの職能ではないのだが、デザイナー物語の題名に「かたちだけ」とは皮肉もこめられているのだろうか。いずれ特別な存在、あこがれの対象といった風はもはや見られなくなっている。

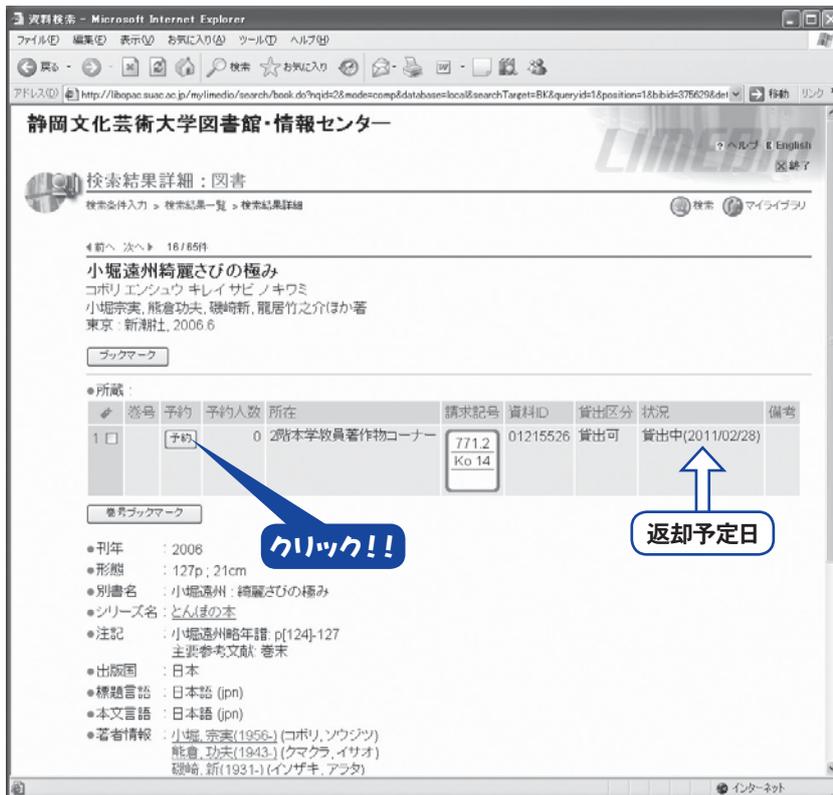
そういえば、誰もが子ども時代に読み聞いたであろう『星の王子さま』の中に、「ものは心で見ると、肝心なことは目では見えない」(池澤夏樹訳)という名言がある。デザイン研究に携わる者としては、些か気になる言説である。いまさらといった気もしないではないが、機会を見て精読せねばと思っている。なお、文字で埋められた読書に疲れたら、内容の柔らかな綺麗な図版入りの図書、例えば澁澤龍彦『フロラ遺選』などがおすすめである。

文学作品にも専門的観点からいろいろな読み方があると思うのだが、小説ばかり読んでいると思われたのでは、専門の研究者として気後れがないではない。ときに図書館散歩で専門書の棚に足を運んでみるのも悪くない。勝見勝『現代デザイン入門』、栄久庵憲司『インダストリアルデザイン』、ババネック『生きのびるためのデザイン』、フォーティ『欲望のオブジェ』など、決して大部ではないが、風格の古典が並んでいる。せっかくの機会、先達の著作群を仰ぎ見ながら、拙著『デザインの産業パフォーマンス』も紹介させていただこう。さてさて、ここいらでデザインの古典でも読み直すことにしようか。

マイライブラリ編 Part 3 ～予約をかける～

OPAC で検索した結果、貸出中となっている図書については **1人5件以内** で予約することができます。また、予約の取消もマイライブラリを使って各自でできます。

予約をかける



【Step1】

検索した結果、貸出中であった場合、所蔵の予約欄に**予約ボタン**が表示されます。この予約ボタンをクリックして予約画面に進みます。

※予約ボタンをクリックする時点でマイライブラリにログインしていない場合は、ログイン画面になります。すでにログインしている場合は、そのまま予約画面になります。

【Step2】

資料名、利用者名が表示されます。「確認に進む」→「この内容で予約」→「元の画面に戻る」で予約が完了します。



予約の図書が用意できた際は **SUAC-Net のメールアドレス** にお知らせメールが届きますので、**一週間以内** にカウンターまで借りに来てください。また、予約状態の確認は《マイライブラリ》画面の「入手待ちの資料」からも確認ができます。

## 予約を取り消す

予約取消は《マイライブラリ》画面の「入手待ちの資料」でできます。取り消したい書名にチェック☑を入れて**予約取消ボタン**をクリックしてください。

予約した資料一覧

マイライブラリ > 予約した資料一覧 検索

資料件数:1件(予約中:1件)

1.  小堀遠州綺麗さびの極み  
小堀宗実, 能倉功夫, 磯崎新, 龍居竹之介ほか著. 新潮社, 2006(とんぼの本). 予約番号: 10001138  
資料が返却されるまでお待ちください。

ページトップ

マイライブラリ > 予約した資料一覧 検索

## 注意!!

以下のような場合は予約がかけられません。

### ×研究室所在の図書

●所蔵:									
巻号	予約	予約人数	所在	請求記号	資料ID	貸出区分	状況	備考	
1 ☐ : pbk	<input type="checkbox"/> 予約	0	研究室	316.88 G 45	01214602	貸出可	貸出中(2011/05/31)		

教員への研究室貸出図書として長期に貸出しているものです。このような資料を閲覧希望の場合は、カウンターの職員に相談してください。

### × 2冊所蔵があり、1冊は貸出中、もう1冊が書架にある場合

●所蔵:									
巻号	予約	予約人数	所在	請求記号	資料ID	貸出区分	状況	備考	
1 ☐	<input type="checkbox"/> 予約	0	1階閲覧書架	092.1 Ta 95	01079233	貸出可			
			1階閲覧書架	092.1 Ta 95	01168704	貸出可	貸出中(2011/06/22)		

閲覧書架にあるものを探しに行ってください。書架に見当たらない場合は職員にお尋ねください。

### × 2階 AV コーナー所在のビデオ・DVD・CD等の視聴覚資料は館外貸出できません。

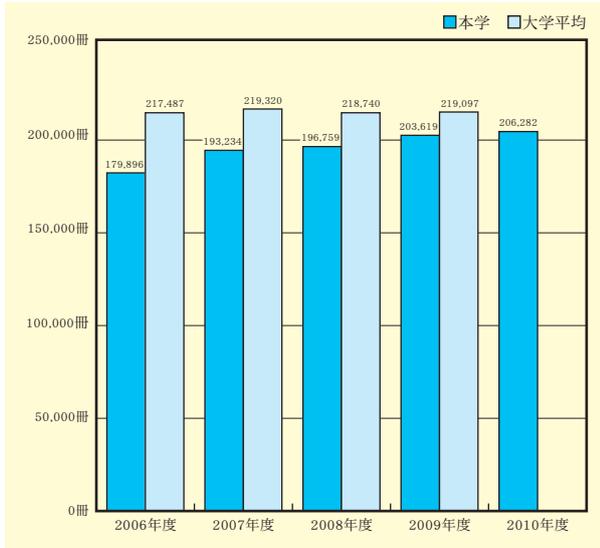
貸出中となっている視聴覚資料は授業で使用するために館外に貸出をしています。予約はかけられませんので返却され次第、館内で視聴してください。

### × 製本雑誌・参考図書には予約をかけることができません。

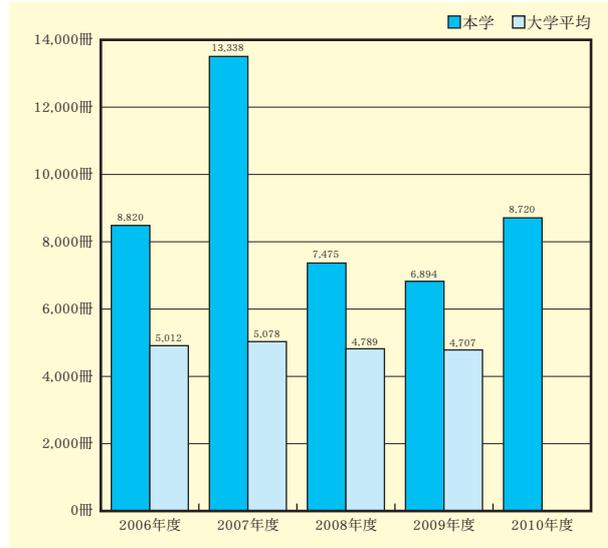
## 図書館ニュース

### 図書館・情報センターの蔵書数および利用状況

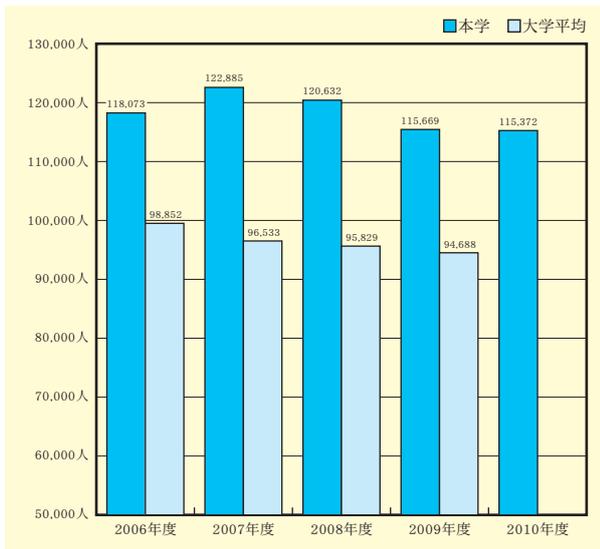
#### ◎蔵書冊数



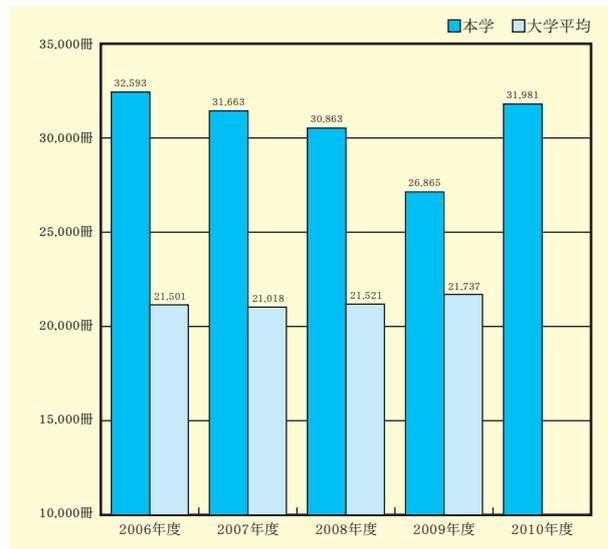
#### ◎受入冊数



#### ◎入館者数



#### ◎館外貸出冊数



※くわしい情報は図書館・情報センターのホームページで！

「大学平均」は『日本の図書館：統計と名簿』より算出

#### 開館時間の変更を試行します。

平成 23 年度は、以下のように試行的に実施します。

- ・前期・後期授業開講期間中の平日は、開館時間を 8 時 45 分に繰り上げます。(これまでより開館時間が 15 分繰り上がります)
- ・7 月 22 日～8 月 3 日と 1 月 25 日～2 月 6 日の平日は、閉館時間を 21 時に繰り下げます。

(この期間の閉館時間が 1 時間繰り下がります)

※諸般の事情により、変更となることがあります。

#### メディアステーションと情報検索コーナーの機器が新しくなりました！

図書館・情報センターのメディアステーションと情報検索コーナーの機器が更新されました。

- ・ OS は Windows7、Office ソフトは Microsoft Office 2010 になりました。(Mac は OS10.6、Microsoft Office 2011)
- ・メディアステーションと情報検索コーナーの全てのパソコンで写真・イラスト等編集統合ソフト (Photoshop・Illustrator・Acrobat など)を使用することができるようになりました。